

地域金融競争

⑤

2015.9.25

1面から続く

「キャッチコピーをもうと目立たせたほうがいいですね」

熊本市中央区の熊本信用金庫本店。同市西区でガソリンスタンドを経営する井芹貴子さん(68)が、コンサルタントのアドバイスに耳を傾けていた。

中小企業の経営相談窓口「県よろず支援拠点」(益城町)の出張相談会。熊本信金が融資先向けに毎週開いている。チラシ作りの相談に訪れた井芹さんは「無料だし、とても助かる」と

銀行統合

すみ分け「崩壊」

ほほ笑んだ。

低金利競争が続ぎ、各金融機関は利息収入の減少に悩んでいる。熊本信金本店営業部長の桑原昭彦さん(57)は「経営者がますます金利を意識するようになってきた」と危機感を募らせる。

しかし、規模で劣る信金が、地方銀行に金利で対抗するのは難しい。出張相談会や経営セミナーなどサービスを充実させ、新たな貸し出しにつなげようと知恵を絞っている。

一方で、営業の職員たち

は、昔ながらにミニバイクで融資先を回る。従業員5人程度の企業が中心だ。桑原さんは「原点回帰」を信金の活路に挙げる。

「地銀と信金はそれぞれに地域での役割がある。小回りの利く信金らしさが見直されるときがくるはず」

信金よりさらに零細な企業や商店を主な融資先とする信用組合は、競争力強化へ連携に乗り出した。

熊本、大分、宮崎、鹿児島

の4信組は1日、全国初の4県にまたがる連携協定を結んだ。ローンなどの商品開発や職員研修に共同で取り組む計画だ。

「人口減少や高齢化で金融市場が縮小し、競争が激しくなった。一番激しいの



コンサルタントにチラシ作りのアドバイスを受けるガソリンスタンド経営者の井芹貴子さん＝熊本市の熊本信用金庫本店

里理事長は、低金利で借り換えさせる「肩代わり」の応酬に頭を痛める。金融機関の「すみ分け」が崩れ、融資先の奪い合いが増えたという。

肥後銀行の田斐隆博頭取は「すみ分けがあったほうが望ましい」と話す一方で、「競争原理としてやむを得ない」と指摘する。

肥後銀行と鹿児島銀行の経営統合は、10月1日に迫った。12月には、西日本シティ銀行が熊本支店を「熊本営業部」に昇格させ、態勢を強化する。

ふくおかフィナンシャルグループの熊本銀行を含め、県内での地銀同士の争いは新たな局面を迎える。

「融資先のパイは限られている。われわれにも間接的な影響はあるだろう」

熊本信金の井芹亮介常務は、競争のあおりを警戒する。(小林義人)

低金利「肩代わり」の応酬

が地銀同士。次に地銀と信金の争いがあり、信組も巻き込まれた」

熊本県信用組合の島田万